

## 感染症情報 1月29日～2月4日

府下小児科198療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	948例(堺市	30例)
②溶連菌感染症	367例(堺市	27例)
③RSウイルス感染症	123例(堺市	4例)
④みずぼうそう	48例(堺市	0例)
⑤突発性発疹	47例(堺市	2例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 13686例(堺市 1239例)

が報告された。

感染症報告数は前週比8.7%減の1,619件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、みずぼうそう、突発性発疹の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より11%減、堺市では前週より47%減であった。溶連菌感染症は府下で前週より2%減、堺市で前週25例→今回27例であった。RSウイルス感染症は府下で前週比2%減、堺市で前週9例→今回4例であった。みずぼうそうは府下で前週比50%増、堺市では前週・今回とも0例であった。

インフルエンザは府下で前週12915例→今回13686例で6%増、堺市では前週1146例→今回1239例で8%増となった。定点当たりでは前週が42.5で、今回は45.0であった。依然として大阪府全ブロックで警報レベル開始基準値の30.0を超えている。1月の大阪府内のウイルス検出状況は、B型が54.9%、AH3(いわゆるA香港)が33.3%、AH1pdm09(いわゆる新型)が11.8%で、B型が主流になり、かつAH3が台頭してきている。3種類全部に罹る可能性もある。

麻疹や風疹の報告はなかった。